

日本武道医学研修道場

最近、雑誌等で日本武道医学研修道場を開設したかのように自分の肩書きに書いている人物がいるが、嘘をついて世間を騙して自慢するのは笑止千万。無論、本当に常識のある人ならば、決して肩書き等に拘らないし、また他の団体の名称を勝手に使ったりすることはしない。

当然、調べもせずに登場する人物の履歴を記載する雑誌編集者と発行者の責任も問われる。

武道医学と日本武道医学研修道場は、昭和30年代に中山先生によって命名された名称であり、その記録は日本初の柔道整復新聞に記載されている。柔道整復新聞は、昭和25年に中山先生によって日本初の柔道整復の新聞として創刊された。

柔道整復新聞は、125号まで発行された。



昭和40年代の武道医学研修道場の様子
後列、右側の黒い道着の人物は、柳生心眼流の島津兼治氏
島津兼治氏は、わずか数回しか中山先生の教えを受けていない。

島津氏は1973年に品川区五反田で倉庫を借りて、「**日本武道研修道場**」を開設したことがある。

本人は日本武道医学研修道場を開設したと肩書きに偽装しているが、**画像1**に見えるように、当時の講習会案内にははっきりと**武道研修道場**の文字が記載されている。当時、中山先生その他、正木流の名和氏およびその他数人の武術家を招いて古武術と古武器の講習会を開いた。

画像2は当時の中山先生のスケジュールである。ちなみに、講習会は島津さんの金銭的な事情により、一度限りで終わってしまい、道場も閉鎖されることになった。

尚、平成8年において、島津氏は武道医学と中山先生との出会いについて、

「菊」という刀剣雑誌上に詳しく記載している記事を読めば、上記の事実を判明できる。（**画像3, 4**）。

☆ 日本武道 ☆ 夏期講習!



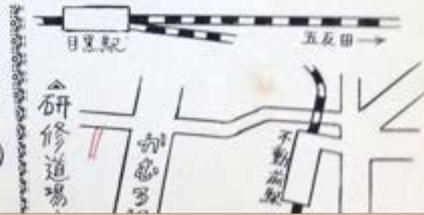
武道修行・愛好者に福音!

※ 古今絶無の新企画。異色の講師陣 ※
日本古来より伝わる武術(武器・体術・小具足)及び武
道医学(正体術・活法術・解剖・鍛練法)など古伝の武
道を原典より見つけ正しく理解しようと言者先生方の協力を得
て此の講習会を設けました。参加資格は特にございま
せん。どなたも受講資格がございませぬ。

住所

品川区西五反田4-27-13

→ 日本武道研修道場
TEL 493-7047 (竹翁舎)
但し木土の夜間7:30~9:00まで



画像 (1) 1973年

日本武道研修夏期講習

7月11日	武道医学 活法術基礎 陰陽について	中山先生	昼休み	正体術基礎 骨学について 遠藤先生
7月18日	武道医学 活法術基礎 五行について	中山先生	昼休み	正体術基礎 筋肉について 遠藤先生
7月25日	武道医学 活法術基礎 五臓について	中山先生	昼休み	正体術基礎 内臓について 遠藤先生
8月1日	筋肉鍛練法	後藤先生	昼休み	武器について 名和先生
8月8日	筋肉鍛練法 実技	後藤先生	昼休み	武器について 名和先生
8月15日	活法術実技	中山先生	昼休み	正体術実技

画像 (2) 1973年

武道医学創始者・中山清先生の追悼

森重流砲術 教伝所竹翁舎
柳生心眼流 道場主

島津兼治

私が中山先生とお会いした時は、武道医学を設立され、すでに半世紀にわたり日本武道医学道場の普及と研鑽に努めておられました。私は初めて武道医学研修会に参加した時、医学勉学の必要性を強く感じさせられました。それまでは柔術の心得のある父は近所の人々から請われて、怪我をした人の治療を行っていたことから、私も幼少のころから父の見よう見まねで接骨の技法を覚え、柳生心眼流の相沢富雄師範の門をくぐり、柳生心眼流正骨術の指導を受け、変な自信を持っていた私は、中山先生の講義を聴き終り、基礎知識の無いものは、非常に難解であったことが第一印象でした。

勉強不足の私に中山先生は、柔整学校に入ること強く勧められました。先生は、柔整学校に入ることが、仕事をしながら移動の現場の仕事をしていただけで、時間が不規則でなかなか学校に入る環境ではありませんでした。しかし中山先生の叱咤激励により、一念発起し入学を決意しましたが、資金不足で入学資金がありませんでした。この窮状を察して同門の武藤師範の提案により、私蔵する蔵書の目録の制作を勧められ、武藤師範の援助で大東流鶴山師範を始め、多くの人々協力を得て、やっとなんげと捻出することができました。

こうして多くの人に支えられて念願の学を果たし、柔術整師の国家免許を取得したのも、中山先生私の人生の進路を開いて頂いた大恩人でありました。

私が中山先生と知合った頃の武道医学研修会は、医学を目指す専門学校の生徒を対象として、研究した膨大な資料を元に、積極的に活動をなされて多くの人々を育成して来られました。しかし私のような外部の者にはなかなか参加することが出来ませんでした。

画像 3

武道医学創始者・中山清先生の追悼

森重流砲術 教伝所竹翁舎
柳生心眼流 道場主

島津兼治

日本武道医学研修道場は、学校で強鞭する教え子を中心に研修会が頻りに行われ盛大になり、更に充実し、中山先生は、生理を研究と古典の研究に徹し、後中山先生に生涯を通じて探究を続けられた。脚火に燃やされた日本武道医学は、その後中山先生に生涯を通じて支持をいたした。S・パリッシュ先生が、生前に中山先生より正式に後継者として認可されて継承されました。

現在日本武道医学研修道場は、師の意志を継承したS・パリッシュ先生が活動を続けておられます。

S・パリッシュ先生は中山清先生の膨大な資料を集められて、武道医学の著述を多く出版し普及活動をなされ、隠れた武道医学の一端を公開して、武道界に大きな一石を投じております。更に我が国唯一の日本武道医学専門学園を創設され、武道医学の研修と普及に勤めておられます。これは敬意に値します。

心重を注いで永年にわたって築き上げた、中山清先生の「武道医学」は、近年になりまして注目を浴び、S・パリッシュ先生や、一門の努力により、武道界に新風を吹き込み、羽ばたき始めました。しかし、中山清先生は群れ咲く未来の大輪の彩花を見ることなく、



在りし日の研究会風景

画像 4

画像 4 にある写真は、上記の1973年の講習会において、休憩中の中山先生と島津氏と他の先生との一場面である。

中山先生が開設した武道医学研修道場の参加資格は先生の教えを受けた柔道整復の学生または卒業者のみでした。

現在も中山先生の意思を尊守すべき、日本武道医学の学生およびOBのみ日本武道医学研修道場に入門できる。